

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

（1）過去5年間の報告状況

| 疾患名 | 2017年 (平成29年) | 2018年 (平成30年) | 2019年 (令和元年) | 2020年 (令和2年) | 2021年 (令和3年) |
|---------------|------------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 性器クラミジア感染症 | 267 | 274 | 284 | 255 | 274 |
| 性器ヘルペスウイルス感染症 | 285 | 277 | 257 | 178 | 177 |
| 尖圭コンジローマ | 65 | 86 | 79 | 75 | 65 |
| 淋菌感染症 | 60 | 42 | 59 | 47 | 55 |
| 性感染症報告数 小計 | 677 | 679 | 679 | 555 | 571 |

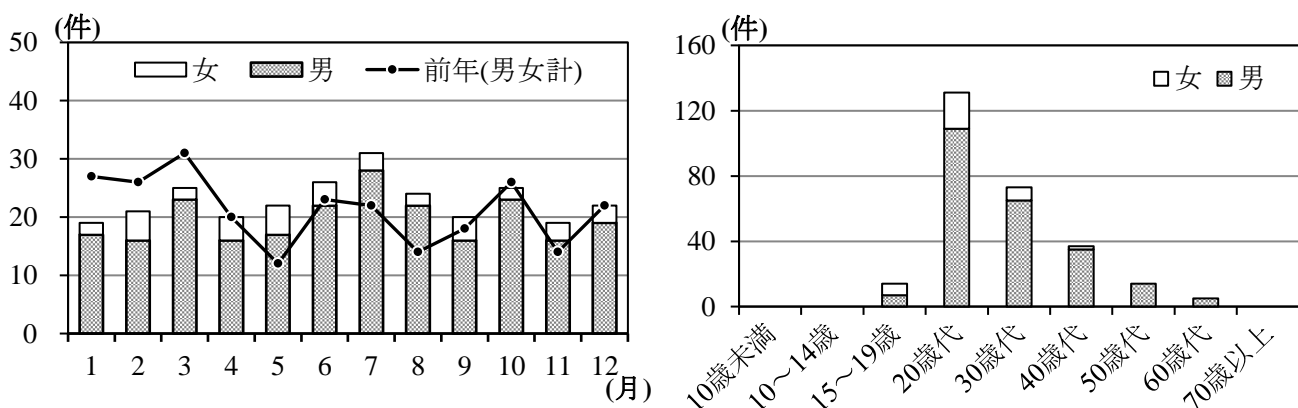
| | | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 269 | 258 | 276 | 269 | 209 |
| ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 5 | 3 | 3 | 1 | 0 |
| 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 1 | 0 | 3 | 2 | 0 |
| 薬剤耐性菌感染症報告数 小計 | 275 | 261 | 282 | 272 | 209 |

（2）性感染症患者報告状況

性感染症の総報告数は571件で、前年（555件）より増加した。男女別では、男性397件（前年402件）、女性174件（前年153件）と、前年と比べ男性は減少し、女性は増加した。疾患別では、性器クラミジア感染症（48.0%）、性器ヘルペスウイルス感染症（31.0%）の割合が非常に多く、次いで尖圭コンジローマ（11.4%）、淋菌感染症（9.6%）の順に多かった。

① 性器クラミジア感染症

【性器クラミジア感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



年間報告数は274件と、前年（255件）より増加した。過去5年間の年間報告数も約260～280件と、ほぼ横ばいで推移している。

本疾患はわが国で最も多い性感染症であり、年々増加している。性活動に活発な若年層に多いが、女性は感染しても自覚症状に乏しいため、診断治療に至らないことが多いとされている。

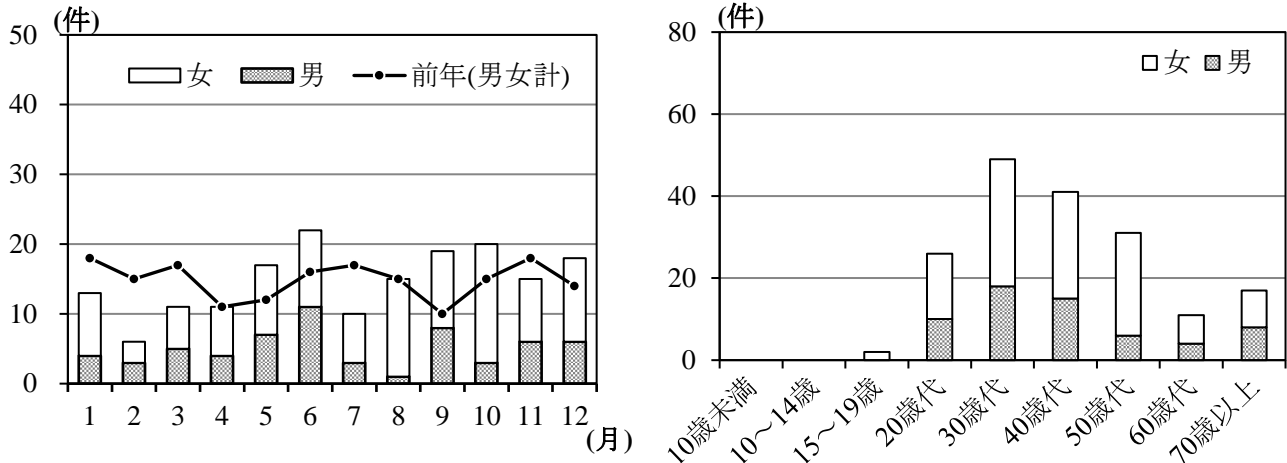
月別報告数では季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。男女別では、男性235件（前年224件）、女性39件（前年31件）と、男性・女性ともに前年より増加し、男性（約86%）の割合が高か

った。

年齢層別報告数では、10歳代 5.1%、20歳代 47.8%、30歳代 26.7%、40歳代 13.5%、50歳以上 6.9%と、20～30歳代からの報告が多かった。

② 性器ヘルペスウイルス感染症

【性器ヘルペスウイルス感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】

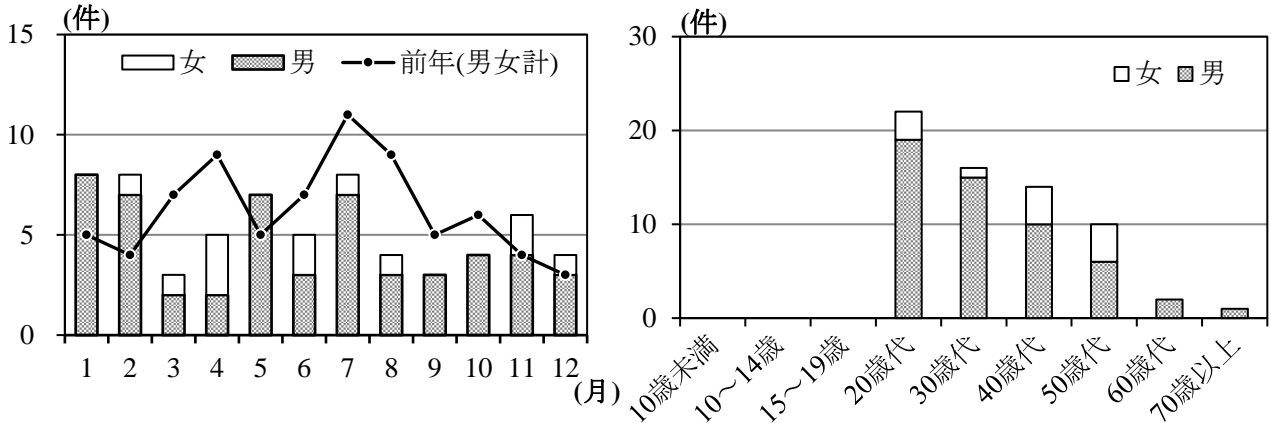


年間報告数は177件と、前年(178件)とほぼ同数であった。月別報告数推移でも、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。男女別では、男性61件(前年72件)、女性116件(前年106件)と、男性は前年より減少し、女性は増加した。また性感染症全体では男性の報告数が多いが、本疾患は女性が約66%を占めるなど、他の疾患に比べ女性の割合が高いのが特徴である。

年齢層別報告数は、10歳代1.1%、20歳代14.7%、30歳代27.7%、40歳代23.2%、50歳代17.5%、60歳代6.2%、70歳以上9.6%と、20～50歳代が多かったものの、幅広い年齢層で発生した。また、60歳以上からの報告数が15.8%と他の性感染症と比較して多い傾向が認められたが、本疾患の原因となる単純ヘルペスウイルスは一度感染すると神経節に潜伏し、長年にわたって再発を繰り返すため、再燃の可能性も考えられる。

③ 尖圭コンジローマ

【尖圭コンジローマの月別患者報告数と年齢別患者報告数】

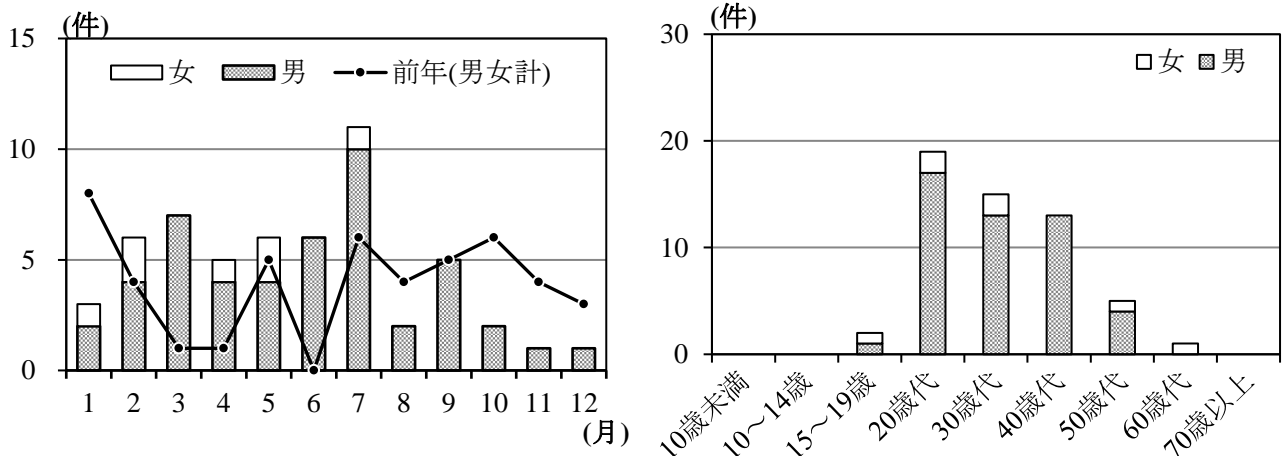


年間報告数は65件と、前年（75件）より減少した。男女別では、男性53件（前年60件）、女性12件（前年15件）と、男性・女性ともに前年より減少した。全体では男性（約82%）が多くを占めた。

患者の大部分は性活動の活発な年代であり、年齢層別報告数は、20歳代 33.9%、30歳代 24.6%、40歳代 21.5%、50歳代 15.4%、60歳以上 4.6%と、20～50歳代の報告が多かった。

④ 淋菌感染症

【淋菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



年間報告数は55件と、前年（47件）より増加した。男女別では、男性48件（前年46件）、女性7件（前年1件）と性器クラミジア、尖圭コンジローマと同じく男性からの報告が多く、約87%を占めた。

年齢層別報告数は、10歳代 3.6%、20歳代 34.6%、30歳代 27.3%、40歳代 23.6%、50歳代以上 10.9%であった。20～40歳代の割合が高く、全体の約86%を占めた。

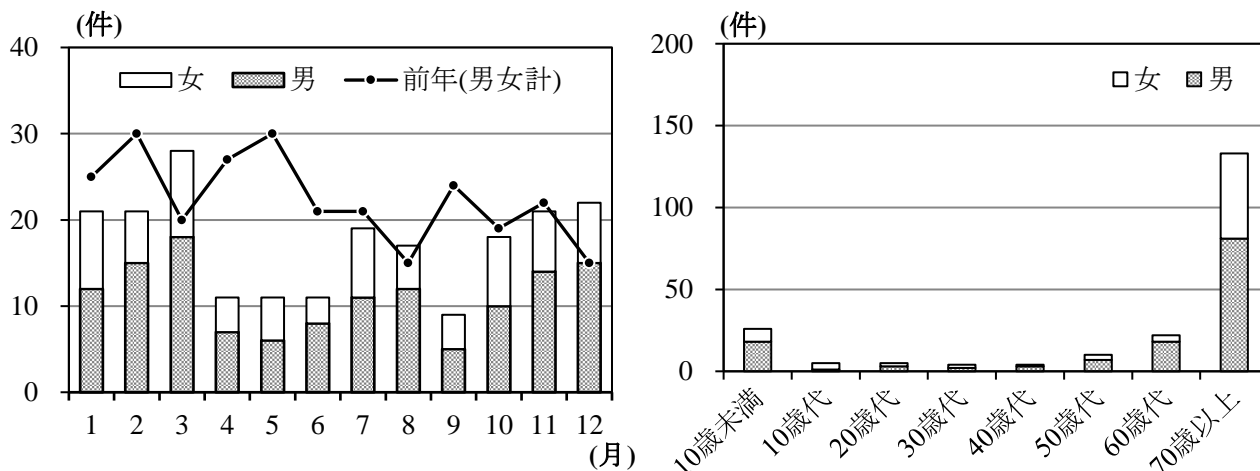
淋菌感染症は全国でも2018年以降増加しており、2021年の報告数は10,000件を超えた。この中で女性の数が男性より極端に少数であることについては、女性の自覚症状が乏しく受診の機会が少ないことが要因の一つと考えられる。淋菌の感染によりHIVウイルスの感染が容易になるとの研究報告もあり、今後も動向を注視すべき疾患である。

(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況

薬剤耐性菌感染症の総報告数は209件で、前年(272件)から減少した。疾患別の報告数においては、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の割合が100%を占めた。

① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

【メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】

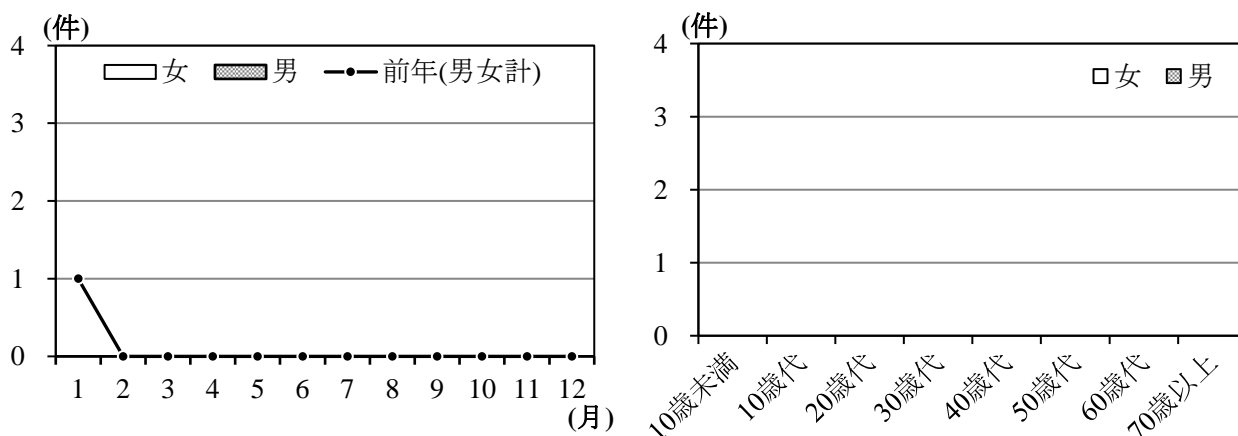


年間報告数は209件であり、前年(269件)より減少し、性別では、男性133件、女性76件と、男性が多かった。月別報告数では、月毎に増減はあったものの季節的な特徴は認められず、年間を通じて発生した。

年齢層別報告数は、10歳未満12.4%、10歳代2.4%、20歳代2.4%、30歳代1.9%、40歳代1.9%、50歳代4.8%、60歳代10.5%、70歳以上63.7%と、60歳以上の報告が多かった。

② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

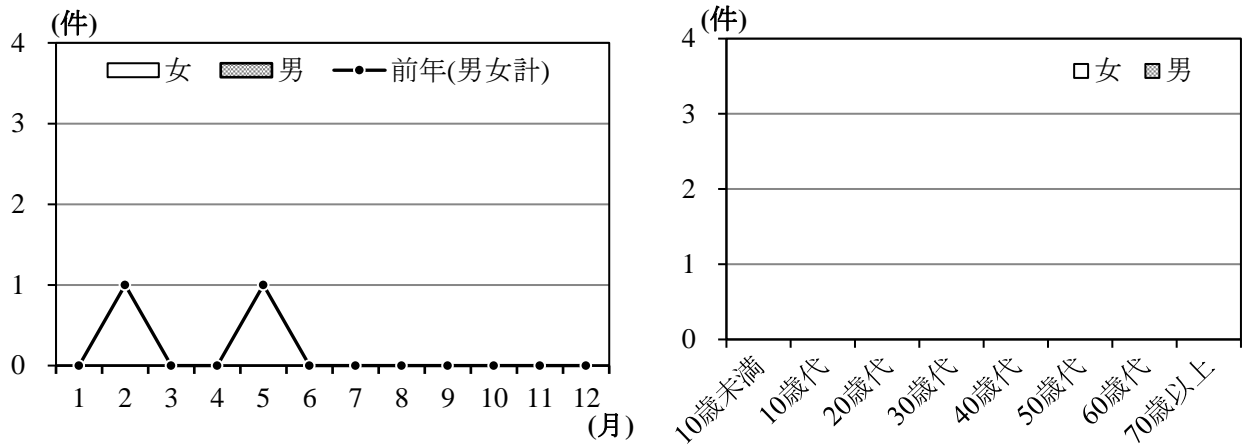
【ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



2021年は報告がなかった。過去5年では、0~5件で推移している。

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症

【薬剤耐性緑膿菌感染症の月別患者報告数と年齢別患者報告数】



2021年は報告がなかった。過去5年では、毎年0~3件で推移している。